

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2022.10.31 No.67

Japan Association of College and University
Archives : Eastern Japan Division

目 次

・平崎 真右「東日本部会第127回研究会に参加して」	1
・図子まほろ「記念講演『少子化時代に向けて大学教育はどうあるべきか』を聞いて」	3
・飯村 百恵「第128回研究会に参加して」	5
・全国大学史資料協議会東日本部会2022年度総会議事録	7
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	12
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	14

2022年3月10日（木）第127回東日本部会研究会（於：帝京大学総合博物館／オンライン）

東日本部会第127回研究会に参加して

拓殖アーカイブズ事業室 平崎 真右

2022年3月10日、帝京大学八王子キャンパスで開催された東日本部会第127回研究会について、簡単なレポートを試みたい。当日のプログラムは、以下の通りである。

講演① 堀越峰之「コロナ禍で大学博物館は社会に対して何を果たせるか」

講演② 甲田篤郎「帝京大学における大学史資料の活用と公開」

見学会 企画展「帝京大学創基90年記念－帝京ことはじめ－SINCE1931 帝京商業学校の物語」

まず講演①では、帝京大学総合博物館の開館（2015年9月）にいたるまでの準備過程や、

現在までの活動内容、コロナ禍における博物館の存在意義や試みに関する報告がなされた。博物館が1枚の設立認可証からスタートしたことから、資料収集や学生の博物館実習の場としての実践的な教育活動、教育や研究成果の公開、そして地域社会との連携の推進などが、具体例とともに紹介された。これら積極的な活動により、2019年度には来館者総数が10万人を超えた矢先、2020年1月以降から本格化した感染症の拡大によって来館者数が前年度の半分以下となり、従来のような活動を行なうことが難しくなる。こうした感染症流行下では、博物館の利用者層である「市民・

学生・教員」に対し、市民には WEB や SNS を用いた情報発信を、学生には博物館実習の受け入れとともに、学生自身によるフリーマガジン（『ミコタマ』）発行のサポートを、教員には遠隔用教材の開発支援をと、各層に向けた活動を試みたという。最後には、大学史の意義を振り返るなかで、今後の博物館は「コミュニケーションの場」としての体験をオンラインでも提供していくことや、「コロナ禍」の現在を記録していく展望などが示された。

つづいて講演②では、帝京大学における大学史資料の収集と活用に関する説明と、博物館で開催される企画展のねらいや取り組みについての報告がなされた。これまでの企画展の概要や、学内における資料収集の実際とそれにとまなう複数のキャンパスの形成史、企画展開催のねらいや展示準備に関する内幕などが具体的に紹介された。

最後は、企画展「帝京大学創基 90 年記念—帝京大学ことはじめ— SINCE1931 帝京商業学校の物語」について、甲田学芸員による詳細な解説とともに見学会を行なった。企画展の具体的内容は展示会開設パンフレットに譲るが、筆者としては、展示スペースの広さや什器の充実ぶりなどに目を見張るばかりであった。



総合博物館での展示解説の様子

見学会後の質疑では、(2020 年度の) 来場者数 1 万人の内訳、企画展のタイトルに見える「大学創基」の「創基」という言葉を用いた理由、八王子の博物館で地方キャンパスの話をするるとどのような反応があるのかなどについて、それぞれに応答がなされた。

当日の進行はおよそ以上であるが、次に興味を惹かれた諸点についてまとめてみたい。

まず、帝京大学では博物館開設にいたるまで、年史編纂ばかりでなく同窓会組織の類も存在しなかったことを今回はじめて知り、驚いた。自校に関する（設立認可証以外の）資料収集を始めることからスタートし、博物館を開設するまでには如何ほどの苦労やドラマがあったのか、すぐには想像もつかない。これまでの歩みのなかで、周年事業をきっかけとして教員間との連携もはかどり、博物館が自校に関連する資料収集をしているとの認知が学内に浸透していくことで、他部署からの資料寄贈や協力も増えていったとのくだりには、草創期ならではの面白さが垣間見えるようである。ここからは、独立した部署の継続的かつ積極的な活動の重要性を汲み取ることができた。

また、八王子キャンパスの立地についても興味深いものを感じた。キャンパス内の 7～8 割ほどの面積が遺跡の上に建てられており、発掘調査で出土した土器その他の出土物を利用した企画展示や、地域の歴史を地域の人々に伝えるための体験型ワークショップの開催などは、学内外に向けた教育・文化資源としての活用という点でも非常に有用であろう。今回の研究会後に少しだけキャンパス周辺を

歩いてみたが、古い記憶の痕跡がどこかにないだろうかと考えながらの散策は、またひと味ちがった面白味を与えてくれた。

企画展見学では、弊学も関係する展示資料として「弁論班 拓殖大学主催全関東中等学校弁論大会及び東京高等工学校主催全国中等学校雄弁大会 入賞記念」(1936 年)の写真有り、興味を惹かれた。弊事業室は、今年度5月より新設された組織だが、旧編纂室の業務を引き継ぎながら、さらに関連史資料の調査・収集を進めていくつもりである。そのうえでは、従来のように自校に関する資料収集はもちろんのこと、他学が蔵する自校に関連する情報も、可能な範囲で把握していく必要性がでてくるかもしれない。それらの情報共有を進めることができれば、研究・教育活動にとってさらなる便宜を図ることもできるのではないだろうか。この種のシステム(例えば横断検索のようなもの)の構築と利用については、

過去の研究会においても、大学史資料の共同利用(東日本部会第 98 回研究会、2016 年)や、資料目録の構築と公開(東日本部会第 109 回研究会、2018 年)をめぐるテーマとして俎上にのせられたと仄聞しているが、それらがあるのとないのとは、調査・研究のありかたに大きな違いも生じると思われる。今後は、デジタル・ヒューマニティーズとの連携も進展していくはずである(東日本部会第 123 回研究会、2021 年)。

情報共有の場を構築することは容易なものではないが、仮にその方向に歩を進めるにせよ、まずは自校の所蔵する史資料の整理と公開(今後はとくにデジタル上での公開)が前提となる。拓殖アーカイブズ事業室においても、なるべく近い将来には所蔵史資料の外部公開が実現できるよう努めているさなかであることを、最後に付記しておきたい。

2022年6月2日(木) 東日本部会2022年度総会(於: 専修大学神田キャンパス/オンライン)

記念講演「少子化時代に向けて大学教育はどうあるべきか」を聞いて

日本大学企画広報部広報課 図子まほろ

2022 年 6 月 2 日(木)、専修大学神田キャンパス 10 号館にて全国大学史資料協議会東日本部会 2022 年度総会及び記念講演が、対面とオンラインによるハイブリッド形式で開催された。また、記念講演後には対面参加者を対象とした有志見学会が行われた。

私は、全国大学史資料協議会東日本部会総会・記念講演には初参加であり、専修大学にも初めて足を運んだ。当日は初めて尽くしで右

往左往していたが、ここでは記念講演の概要と感想を述べていきたい。

専修大学総長・日高義博氏をお招きした記念講演は、「少子化時代に向けて大学教育はどうあるべきか」と題して行われた。



講演は以下の通り進められた。

1. では、演題の趣旨を「大学の未来を見据えた大学史資料の採り方も必要か」として、大学教育及びそれらを取り巻く環境が大きく変化していく中で、大学史はどう対応していくか等の問題提起がなされた。また、大学を取り巻く環境の変化として表題にある少子化だけでなく、東日本大震災や新型コロナウイルス感染症の流行なども例に挙げ、大学の存続に向けての長期的なビジョンを構築する難しさについて言及した。

3. では、大学は学問抜きには考えられないとして、まず、学問とはそもそも何であるか整理した。次に、現在の大学に求められているのは、社会と接点を持ちながら学問を追究する開

最後に 4. では、少子化時代に向けて大学改革に求められるものと題して、本講演を総括した。少子化時代に向けての大学改革の分岐点は、少子化に完全移行する 2040 年であり、2030 年までの間にそれ以降にも耐え得る大学教育の中身と設備および財政基盤を整える必要があると話した。また、各大学の設立の背景や建学の精神は異なるが、共通して言えることとして、①大学人の義務と責任および職業倫理が必要であること、②多様な人材を育成する場であるという自覚と人間性の涵養を失念しないこと、③建学の精神に基づく教育・研究を貫徹することの三つを挙げた。そして、今後は教学と法人が一体となり、建学の精神に基づいた運営を進めていくことが最も重要であると述べ、本講演は締め括られた。

XX

らない。変化が激しく先の読めない時代における指針の一つとして、ますますその重要性は増すはずである。大学史においては、年史編纂や調査・資料の収集・整理といった日頃の活動の蓄積によって、建学の精神とその変遷が明らかになっていく。従って、日々の活動に加えてその成果をどう周知するか、どう保存し後世に伝えるかという点が重要な課題の一つになると思った。

最後に印象深かったことを一つ挙げると、日高氏が本講演は答えを示すものではなくそのきっかけとして「少子化時代に向けて大学教育はどうあるべきか」、「大学の未来を見据えた大学史資料の採り方も必要か」各自にも考えてほしいと述べられていたことである。講演の題名と趣旨の末尾を疑問形にした所以でもあるとい

う。本講演を聞き、答えは出なくとも考え続けることそれ自体が大事だと改めて感じた。

以上が、本講演を聞いての私の感想である。今回得たことを胸に、今後も考え続けながら大学史の業務に励んでいきたいと思う。最後になるが、このような講演を拝聴する機会をいただき、専修大学の皆様、企画・運営いただいた皆様に心より御礼申し上げる。



2022年7月21日（木）第128回東日本部会研究会（於：法政大学市ヶ谷キャンパス／オンライン）

第128回研究会に参加して

東洋大学井上円了記念博物館 飯村 百恵

2022年7月21日(木)、法政大学市ヶ谷キャンパスにて、第128回全国大学史資料協議会東日本部会研究会が開催された。今回の研究会では、拓殖大学アーカイブズ事業室の長谷部茂氏による「拓殖大学百年史編纂のあゆみーロードマップはあったのか?」と題した講演が行われ、創立百年史編纂室の設置から拓殖アーカイブズ事業室が設置されるまでの経緯や、創立百年史編纂室の成果、100年史編纂事業のロードマップ等についての話があった。講演の最後には、ロードマップ上の迷走と作業工程上の個別失敗反省案件や、積み残し案件

と今後の課題について、事例をあげながら詳しく説明していただいた。



拓殖大学における100年史編纂事業の体制について、特徴的と思われたのは、同大学の国

際日本文化研究所の附属機関である近現代研究センターのメンバーが、創立百年史編纂室のスタッフを兼ねていたことである。すなわち、同大学では、年史編纂を研究所の事業に位置づけ、研究活動の一環として 100 年史編纂を推進していったのである。このように、学内の研究所・研究者が中心となって事業を担うことで、着実な資料調査と研究成果に基づいた年史編纂が行える体制としたことは、非常に重要であると感じた。

今回の講演の中で、特に印象に残った内容は、最後に取り上げていた 100 年史編纂事業における失敗や反省などの実例に基づく説明であった。その中でも、「目次構成は、すでに入手済の資料をもとに無理なく作成し、重要資料の収集に深入りしないこと」や、「業者選定は、慎重が上にも慎重に」という話は、今後、年史編纂を行っていくうえで、肝に銘じておきたい内容であると感じた。限られた時間の中で、最後の最後まで具体的かつ詳細な説明をいただいたが、実際に年史編纂に携わったからこそ話せる内容であり、熱のこもった非常に貴重なお話であった。この熱量と熱意が、年史編纂の一番の推進力となるものであろう。ぜひ、今後の参考にしたいと思った。

講演会終了後は、HOSEI ミュージアムの見学会が行われ、大学史展示と現在開催中の法政大学沖縄文化研究所 50 周年記念 HOSEI ミュージアム企画展「沖縄を知り、考え、つながる」を見学した。

大学史展示は、デジタルサイネージを導入し、実物資料とともにデジタルコンテンツを取り入れた展示となっていた。4 台並んだ大画面

のデジタルサイネージはとても迫力があり、コンテンツもとても充実したものであった。今後、当館においてデジタルコンテンツを取り入れた展示を検討していくうえで、非常に参考にしたい展示であった。



企画展は、展示会場が 3ヶ所に分かれており、法政大学沖縄文化研究所の大里知子氏の案内のもと、それぞれの展示内容について解説していただきながら見て回った。

場所の離れた 3ヶ所の会場で、それぞれ展示環境が異なる中、いかに多くの学生に展示を見てもらえるかなどを考えながら、様々な工夫を凝らして展示を行っていたのが印象的であった。同館では、今回の沖縄文化研究所との企画も含め、これまでも様々なテーマで学内の研究機関と連携した展示を行っている。大学博物館としては、学内の研究者・研究機関との連携は非常に大事なことであり、あらためて、大学における多様な研究成果を公開する場としての大学博物館の在り方と可能性について考える良い機会となった。

3 2022 年度事業計画案・同予算案について

事務局（日本大学）から、配付資料「全国大学史資料協議会東日本部会 2022 年度事業計画書（案）」に基づき説明があり、ついで会計委員（東海大学）から配付資料「全国大学史資料協議会東日本部会 2022 年度収支予算書（案）」に基づいて本年度予算が説明され、事業計画・予算案ともこれを承認した。

4 2022 年度東日本部会役員について

2022 年度事務局（明治大学）から、配付資料「全国大学史資料協議会東日本部会 2022 ～ 2023 年度 役員案」に基づき説明があり、これを承認した。

閉会の挨拶 豊田 雅幸氏（立教学院）

記念講演（15：05 ～ 16：25）

会場校挨拶 松木 健一氏（専修大学理事長）

記念講演 日高 義博氏（専修大学総長）

演題「少子化時代に向けて大学教育はどうあるべきか」

有志見学会 10 号館及び神田キャンパス

〔概要〕

2022 年度東日本部会総会において、日高義博専修大学総長による「少子化時代に向けて大学教育はどうあるべきか」と題した記念

講演が行われた。大学をとりまく環境は大きく変化してきた。特に 18 歳人口の減少問題や少子化社会に対応した大学のあり方が問われるようになったのは 90 年代に入った頃からである。2000 年代には東日本大震災などの災害や新型コロナウイルス感染症拡大などによって、大学を取り巻く環境は大きく変容した。明治期からはじまる日本の高等教育機関・大学の歴史は、法制度の整備とともに歩みをすすめてきた。旧制期にはうまく機能していたその大学制度も、新制大学となって以降は錯綜してきているのではないか。特に大学全入となった 2020 年に至って、改めて各大学は生き残りをかけ、厳しい統廃合や教職員数の適正化などの改革が必要とされている。私学においては特に、建学の精神に基づく改革が求められる。大学には、歴史的にいくつもの使命が課せられてきた。中世ヨーロッパの大学の原型と比して、日本の大学のあり方を改めて見直すことも必要だ。今後、日本の少子化社会において、各大学がやるべき改革は大きく 3 つ程度に集約されるのではないか。私学としてのあり方を追求し、建学の精神に基づく教育研究を貫徹すること、そのための環境を整備すること、大学教育は研究に基づくものであることが求められる。以上の趣旨の講演の後、質疑応答が活発に行われた。

（浅沼薫奈）

全国大学史資料協議会東日本部会

2021年度収支決算書

2021年4月1日～2022年3月31日

収 入				(単位:円)
項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
会費収入	1,520,000	1,525,000	△ 5,000	
法人等会員	1,340,000	1,360,000	△ 20,000	68機関分×20,000円
個人会員	180,000	165,000	15,000	31名分(他延滞1口、先納1口含む)×5,000円 (※3名滞納)
利息収入	1,000	53	947	
預貯金利息	1,000	53	947	預金利息
参加費収入	60,000	0	60,000	
部会総会参加費	0	0	0	※2021年度はオンライン開催
全国総会参加費	60,000	0	60,000	※2021年度は書面開催
雑収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
合 計	1,581,000	1,525,053	55,947	

支 出				(単位:円)
項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
運営費支出	80,000	35,700	44,300	
総会費	20,000	0	20,000	
幹事会費	40,000	33,000	7,000	Zoomアカウント年間契約料
部会研究会費	20,000	2,700	17,300	第125回研究会謝礼
謝礼支出	80,000	11,137	68,863	
講師謝礼等	80,000	11,137	68,863	講演謝金(1名分)、同源泉所得税
消耗品費支出	10,000	0	10,000	
消耗品費	10,000	0	10,000	
印刷費支出	400,000	166,815	233,185	
印刷費	400,000	166,815	233,185	会報No.65・No.66印刷費
通信費支出	180,000	127,398	52,602	
事務連絡費	180,000	127,398	52,602	会員連絡費、会報発送費(No.65・No.66分)、通信物切手料金等
手数料支出	10,000	3,355	6,645	
手数料等	10,000	3,355	6,645	金融機関送金手数料他
参加費支出	60,000	0	60,000	
総会参加費	60,000	0	60,000	※2021年度はオンライン開催
旅費交通費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
事業費支出	350,000	111,688	238,312	
出版事業	250,000	0	250,000	研究叢書22号(西日本部会担当)は2022年度刊行予定
その他	0	0	0	
ホームページ事業	100,000	111,688	△ 11,688	ウェブサイト更新料等(※西日本分担当48,021円)他
ホームページ 改善積立金	0	0	0	
予備費	50,000	0	50,000	
合 計	1,220,000	456,093	763,907	
当年度収支差額	361,000	1,068,960	—	
前年度繰越収支差額	4,930,855	4,930,855	—	
翌年度繰越収支差額	5,291,855	5,999,815	—	

2021年度貸借対照表

2022年3月31日

資 産				(単位:円)
項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
ホームページ改善積立金	600,000	600,000	0	
三井住友銀行	600,000	600,000	0	三井住友銀行 経堂支店普通預金
銀行預金	5,976,184	4,886,059	1,090,125	
三井住友銀行	5,976,184	4,886,059	1,090,125	三井住友銀行 経堂支店普通預金
現金	23,631	44,796	△ 21,165	
事務局校	0	0	0	
会計校	23,631	44,796	△ 21,165	東海大学
合 計	6,599,815	5,530,855	1,068,960	

負債・収支差額				(単位:円)
項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
負債	600,000	600,000	0	
ホームページ改善引当金	600,000	600,000	0	
収支差額	5,999,815	4,930,855	1,068,960	
収支差額	5,999,815	4,930,855	1,068,960	
合 計	6,599,815	5,530,855	1,068,960	

2022年 4 月 1 日

上記の通り報告します。

会計委員 東海大学 椿田 卓士 印

神奈川大学 齊藤 研也 印

神奈川大学 大坪 潤子 印

2022年 4 月 22 日

監査の結果、適正と認めます。

監査委員 國學院大學 渡邊 卓 印

帝京大学 堀越 峰之 印

全国大学史資料協議会東日本部会
2022年度収支予算書（案）
2022年4月1日～2023年3月31日

収 入				(単位:円)
項 目	2022年度予算	2021年度予算	増 減	摘 要
会費収入	1,520,000	1,515,000	△ 5,000	
法人会員	1,320,000	1,340,000	20,000	66機関 @20,000円 ※2021年度は67機関
個人会員	200,000	175,000	△ 25,000	37名 @5,000円 + 昨年度滞納3口分
利息収入	1,000	1,000	0	
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息
参加費収入	0	60,000	60,000	
部会総会参加費	0	0	0	30名 @0円(2022年度は専修大学) ※2021年度はオンライン開催
全国総会参加費	0	60,000	60,000	50名 @0円(2022年度は神奈川大学) ※2021年度はオンライン開催
雑収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
合 計	1,521,000	1,576,000	55,000	

支 出				(単位:円)
項 目	2022年度予算	2021年度予算	増 減	摘 要
運営費支出	80,000	80,000	0	
総会費	20,000	20,000	0	会場費・設備使用料、資料作成費、他開催経費
幹事会費	40,000	40,000	0	Zoomライセンス契約料、会場費・設備使用料他
部会研究会費	20,000	20,000	0	会場費・入場料・飲料代他
謝礼支出	80,000	80,000	0	
講師謝礼等	80,000	80,000	0	講演料・原稿料・源泉税・課税交通費他
消耗品費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費
印刷費支出	400,000	400,000	0	
印刷費支出	400,000	400,000	0	会報印刷費(No.67およびNo.68 年2回分)他
通信費支出	180,000	180,000	0	
事務連絡費	180,000	180,000	0	会員連絡費、会報送料(No.67およびNo.68 年2回分)
手数料支出	10,000	10,000	0	
手数料等	10,000	10,000	0	金融機関振込手数料他
参加費支出	0	60,000	60,000	
総会参加費	0	60,000	60,000	
旅費交通費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
事業費支出	550,000	350,000	△ 200,000	
出版事業	250,000	250,000	0	叢書22号印刷費(西日本部会担当)、その他
その他	0	0	0	
ホームページ事業	300,000	100,000	△ 200,000	HP改修等の維持管理金、その他
ホームページ 改善積立金	0	0	0	ホームページのバージョンアップ・機能追加臨時経費
予備費	50,000	50,000	0	
合 計	1,360,000	1,220,000	△ 140,000	

当年度収支差額	161,000	356,000	—	
前年度繰越収支差額	702,436	346,436	—	
翌年度繰越収支差額	863,436	702,436	—	

全国大学史資料協議会東日本部会 幹事会議事録

第 204 回全国大学史資料協議会東日本部会

幹事会議事録

日 時 2022 年 4 月 28 日 (木)

14:00 ~ 15:20

場 所 Zoom によるオンライン開催

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学
専修大学 大東文化大学 東海大学
日本大学 武蔵野美術大学
明治大学 立教学院 古俣達郎
檜皮瑞樹

議 題

(1) 2022 年度東日本部会総会について

- ・研究会担当(専修大学)より、当日のスケジュール案と担当者の確認があった。当日はハイブリッド形式での研究会とすること、見学会は有志とする旨の説明があった。
- ・事務局(日本大学)より事業報告・事業計画案が、会計校(東海大学)より決算書・予算書案について報告があり、承認された。

(2) 2022 年度全国研究会について

- ・研究会担当(神奈川大学)より、本年度の研究会は神奈川大学みなとみらいキャンパスを会場に 10 月 5 日(水)から 7 日(金)にかけて「地域と大学」をテーマとして開催すること、および当日のスケジュールに

ついて説明があった。

- ・見学会については、神奈川県立公文書館で開催する方向で計画している旨説明があり、承認された。
- ・情報交換会(茶話会)については、新型コロナウイルス感染症の流行状況によって改めて検討することになった。
- ・参加費については、今回は徴収しないこととし、資料作成費や会場費等の必要経費は運営費で対応することとなった。
- ・全国研究会での報告者を東日本部会から 2 名出す必要があるが、会長校と事務局に一任することとなった。
- (3) 2022 年度東日本部会研究会について
 - ・7 月研究会について、担当校(大東文化大学)より説明があり、6 月の幹事会で改めて報告することとなった。
 - ・本年度の東日本部会の年間テーマについて検討し、今年度も「大学史資料の活用と公開」とすることが承認された。本テーマでの研究会が 4 年目に入ることから、次年度は新たな年間テーマを設定してはどうかとの意見があった。
- (4) その他
 - ・会報担当(大東文化大学)より、66 号の刊行準備は順調に進んでいる旨が報告された。

- ・2022 年度役員案について、前回幹事会で今年度ホームページ担当校は明治大学としていたが、日本大学へ変更する旨について説明がなされ、承認された。
- ・ホームページの改修について、担当校（神奈川大学）より、現在業者に依頼して改修を進めている旨説明があった。
- ・事務局より、田渕正和氏、小松修氏、村松玄太氏の 3 名から個人会員として入会の申込みがあったことが説明され、承認された。

第 205 回全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

日 時 2022 年 6 月 2 日（木）

13：00～13：30

場 所 専修大学神田キャンパス 10 号館相馬永胤記念ホール、Zoom 併用

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学
大東文化大学 帝京大学 東海大学
日本大学 武蔵野美術大学
明治大学 立教学院 檜皮瑞樹

議 題

- (1) 2022 年度東日本部会総会について
 - ・事務局（日本大学）から部会総会スケジュールと担当者について報告があり、これを確認した。
- (2) 2022 年度全国研究会について

- ・研究会担当（神奈川大学）から全国研究会の準備状況について報告があった。
- ・報告者については、立教学院（新会長）、専修大学、明治大学（新事務局）で調整する。

(3) 2022 年度東日本部会研究会について

- ・研究会担当（大東文化大学）から準備状況について報告があった。7 月 16 日に拓殖大学・長谷部茂氏による講演、会場である HOSEI ミュージアムの見学を実施する。
- ・事務局（日本大学）から 2022 年度研究会担当について報告があり、これを確認した。

(4) その他

- ・事務局（日本大学）から 2022 年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会への後援について報告があった。
- ・事務局（日本大学）からホームページ改修の見積もり案が提示され、これを承認した。

第 206 回全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

日 時 2022 年 7 月 21 日（木）

13：10～13：40

場 所 法政大学市ヶ谷キャンパス・九段北校舎 4 階会議室、Zoom 併用

出席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学
大東文化大学 帝京大学 東海大学
日本大学 武蔵野美術大学
明治大学 立教学院 古俣達郎

議題

- (1) 2022 年度全国研究会について
 - ・神奈川大学から準備状況について報告があった。
- (2) 2021 年度東日本部会総会の総括
 - ・事務局（明治大学）から報告があった（会場参加者数、オンライン参加者数など）
- (3) 今後の研究会運営方法などについて
 - ・当日のオンラインのトラブルに備えて、幹事の携帯電話を共有するなどしてオンライン参加者との連絡を取れるようにすることで、不測の事態に備えることとした。
- (4) 新入会員（下間大輔氏）について
 - ・事務局（明治大学）から報告があり、これを承認した。
- (5) その他
 - ・事務局（明治大学）から武蔵野美術大学、東洋大学、上智大学の担当者の変更について、および退会会員（下田尊久氏）について報告があった。
 - ・次回幹事会は 9 月 22 日（木）に開催する。会場候補は神奈川大学みなとみらいキャンパス。ただし、コロナ感染の状況によってはオンライン開催とする。

全国大学史資料協議会東日本部会
研究会記録

第 127 回全国大学史資料協議会東日本部会
研究会記録

日時 2022 年 3 月 10 日（木）

14:00 ~ 16:00

会場 帝京大学八王子キャンパス

帝京大学総合博物館

（住所）東京都八王子市大塚 359

※対面とオンラインのハイブリッド開催

出席 【対面】

国士舘 専修大学 拓殖大学

中央大学 帝京大学 東海大学

日本大学 明星学苑 立教学院

早稲田大学 古俣達郎 谷本宗生

檜皮瑞樹

【オンライン】

お茶の水女子大学 神奈川大学

國學院大學 淑徳大学

女子美術大学 大東文化大学

玉川大学 東洋大学

名古屋市立大学 南山学園

日本獣医生命科学大学 日本大学

法政大学 武蔵野美術大学

明治学院 立教学院 小川千代子

林慎一郎

（西日本部会）

大阪大学 近畿大学 熊本大学

西南学院 梅花学園

武庫川女子大学

